



書誌ID	タイトル	出版者	ページ	差出人と宛先	内容
0000612070	芥川龍之介全集 第18巻 書簡2	岩波書店	p 42	芥川龍之介から塚本文へ	「文ちゃんを貰ひたいと云ふ事を、僕が兄さんに話してから何年になるでせう。…貰ひたい理由はたつたひとつあるきりです。さうしてその理由は僕は文ちゃんが好きだと云ふ事です。勿論昔から好きでした。今でも好きです。」
0000341257	石川啄木全集 第7巻 書簡	筑摩書房	p 263	石川啄木から菅原芳子へ	「貴女のことを思ふと、私の心は乱れます。いつぞやの葉書のお歌、一々忘れずにいます。アノ歌はホントウに貴女のお心ですか？芳子さん、貴女は真にア、思つて下すつたのですか？恋しき芳子さん！」
0080128731	北原白秋全集 39 書簡	岩波書店	p 262	北原白秋から佐藤菊へ	「飛んでお出で、早くお出で、死にさうだ、私は、」
0000803238	坂口安吾全集 16	筑摩書房	p 74	坂口安吾から矢田津世子へ	「お互に励ましあひませう。勇気と光を失はないやうに、力をつけあって、うんと勉強ませう。」
			p 102		「僕の存在を、今僕が書いている仕事の中にだけ見て下さい。僕の肉体は貴方の前ではもう殺さうと思つてゐます。」
0000819332	志賀直哉全集 第18巻 書簡2	岩波書店	p 108	志賀直哉から志賀康子へ	「五六寸の雪で今日は非常に美しかった、…子供達元気に幸だ」
0000582875	高村光太郎全集 第21巻 増補版	筑摩書房	p 226	高村光太郎から高村智恵子へ	「よくたべてよく休んでください。智恵さん、智恵さん。」
0000740158	太宰治全集 12 書簡	筑摩書房	p 339	太宰治から太田静子へ	「一ばんいいひととして、ひつそり命がけで生きてみて下さい。 コヒシイ」
0014715191	定本漱石全集 第22巻 書簡 上	岩波書店	p242	夏目漱石から夏目鏡子へ	「おれの様な不人情なものでも頻りに御前が恋しい」
0080037653	明治文學全集 30 樋口一葉集	筑摩書房	p 339	樋口一葉から半井桃水へ	「なれど私は唯々まことの兄様の心持にていつまでも／＼御身にすがり度願ひに御坐候を」
0080087333	堀辰雄全集 9 書簡	角川書店	p 123	堀辰雄から加藤多恵子へ	「その人の性格や才能の好いところも悪いところも恐らくその人自身と同じ位に知つた上で、その人を本當に静かな氣もちで好きになつてゐられるのです。僕が君を愛してゐる氣持もそれに近いものです。どうかさういふ僕の氣もちを分かつて下さつて、僕のなかの君のすがたに君自身も安心してゐて下さい。」
0011498100	日本文学全集：カラー版 40 森鷗外 2	河出書房新社	p301	森鷗外から森しげ子へ	「 わが跡をふみもとめても来んという遠妻あるを誰とかは寐ん追っかけて来ようというような親切に云ってくれるおまえさんがあるのに外のものにかかりあつてなるものかという意味なのだよ。」
0010094934	定本佐藤春夫全集 第36巻	臨川書店	p41	佐藤春夫から谷崎千代へ	「あなたは私がどんなにあなたにこがれて居るかを察してくれないと見えますね。私の今生きているのぞみは、あなたを一目見ることです」
0000311182	若山牧水全集 第4巻	増進会出版社	p 581	若山牧水から太田喜志子へ	「このお前を思ふ心の底には、たしかに今までに知らなかつた深い痛みが含まれてゐるやうだ、矢つ張り夫の心とでもいふのだらう、お前と相見て、しづかな生活、深い生活、澁まぬ生活に早くも入りたいものと思ふ、」
0080085162	有島武郎全集 第13巻	筑摩書房	p 360	有島武郎から有島安子へ	「あんまり久振りて話をし合つたからつかれハしませんでしたか」
					「病床にある君を眞に慰さめ得るものは僕の努力、甲斐ある事業だと云ふ事を僕はよく知つて居る」